

町営団地の安全対策は

町 災害時の行動マニュアルを追加

問 災害時、町営団地の安全対策は。

町長 入居者に限らず災害時の安全対策は自分を守る事が一番大切である。避難方法や適切な行動が確認できるような啓蒙を普段から行っていく。高齢入居者には、直接出向き避難の仕方を指導していく。

問 高い集合団地で火災や災害が起きた際の避難訓練等は。

ふるさと定住課長 あたごハイツのコンクリート建て町営住宅は、年齢層、家族構成等さまざまである。入居者の理解と協力体制を図りながら、避難訓練を実施していく。

問 団地ごとのニーズに合った防災マニュアルを作成する考えは。

ふるさと定住課長 入居者しおりに災害対策知識、災害時の行動を記載し、追加マニュアルとして対応していく。

医療費削減に健康マイレージを

町 調査研究し実施する

問 健康マイレージの進捗状況は。

保健福祉課長 健康マイレージ事業について、さまざまな取り組み状況、またはポイント制度等を検討している。

問 群馬県中之条町で行った調査によると、一日8000歩、歩く事や早足で20分歩くと健康に効果があると言われている。

脳卒中・心疾患・認知症予防は5000歩、骨粗しょう症・動脈硬化・一部の癌予防は7000歩、高血圧・糖尿病予防には8000歩、歩くと言われている。

ウォーキングにより70歳以上の医療費が、3年前より3割少なかったデータがある。

がある。

本町においても、健康と医療費削減につながる健康マイレージを導入する考えは。

保健福祉課長 保健福祉づくりの動機づけ、自分の健康に関心を持ち運動習慣の定着を促進する事から非常に有効な手段である。

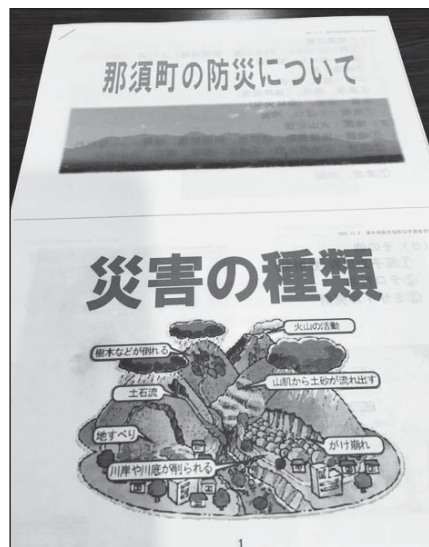
他市町の実施状況や効果等を調査研究の上、地理的に合った事業内容にして実施していく。



松中キミエ



貴方の目標は、5000歩・7000歩・8000歩



一人一人の「自助・互助・共助」が命を守る